

茅ヶ崎セントラルクリニック

小池 はるか(看護部 副主任 / 看護師)

功 績	透析患者の高齢化や併存疾患の増加に対し、透析治療だけでなく在宅生活まで視野に入れた支援を主導した。ケアマネージャー、訪問看護、訪問リハビリ、医師、家族等との多職種連携を取り持ち、転倒予防や服薬管理に介入することで、患者の安定した在宅生活と外来透析の継続に大きく貢献した功績。
推薦者氏名	野口伸一(事務長)
推薦理由	小池氏は、看護師として患者の透析治療だけを見るのではなく、在宅での生活状況や併存疾患、服薬、家族の介護負担まで把握し、多職種をつなぐスターターとしての役割を担った。転倒予防や服薬管理を通じて患者の在宅生活と外来透析の継続を支え、入院患者数の減少と当院の稼働・収益改善にも貢献したことを高く評価し、理事長賞として推薦します。

内 容

小池はるか氏は、透析患者の高齢化や併存疾患の増加に伴い、透析治療だけでなく患者の在宅生活全体を支える必要性に着目し、多職種との連携を中心となって進めた。

具体的には、アルコール性肝硬変やリウマチを併存し、筋力低下による転倒リスクや服薬管理に課題を抱える患者に対し、ケアマネージャーや家族と状況を共有し、訪問看護・訪問リハビリを週1回導入する体制を整えた。また、薬剤師とも連携してカレンダーを活用した服薬管理を導入し、患者本人が自ら服薬を継続できる環境づくりを行った。

これらの取り組みにより、患者の転倒リスク軽減や服薬状況の改善が図られ、安定した透析治療と在宅生活の継続につながっている。また、多職種が患者に関わることで、妻の介護負担の軽減にも寄与している。当院全体では、入院患者数が昨年度月平均5.12人から、今年度4月～8月実績では4.76人へ、1日平均0.36人減少した。1日単価3万円で換算すると、月間約28万円の収益改善となる。小池氏によるこうした取り組みはその一例であり、患者の入院回避と外来透析継続を通じ、当院の安定した稼働にも貢献している。